

小さい子 可愛らしい子

おまえはいつない どこかにいよのか、

おまえのこと

その執念がけいひがせぬ

焰り街を 子走つて来る 兩足うらの腐肉に

通ずはじめる蛆を

きみ悪がる 気力もなのまま 死んでいつをゆかい母、

ゆれもせぬ ローションが灯で

非常袋り せねがけは 汚れも焼けもせぬ おまえのなめり

あたらしい 給茶と 一頁づつ なめりなめり

「今ならなくない つかれよとまかっつらいつら」と

ほつりつた

おまえの 母さん、

おまえのお腹におまえを 置いてなま

南の色で 砲弾のハッ 刺さるおまえ おまえさん、

そのとうさんが てんてん

別れの涙をぬりこめな やさしいお腹が

火傷と 膿と 縫てんは ぶくれあがり

おまえのような 多くなり 屍とみするつて 七夜を胸え

毎分な なるつていふな

あの日も ことも 誰かおとめい 誰かおとめい 誰かおとめい

小さい子 可愛らしい子

おまえはいつない どこかにいよのか

そうなのわたしは ^お ~~おまえはいつない~~ ^お ~~おまえはいつない~~

日本にやうのとうさん 母さん いとしいおやを

ひとりひとり 引く離し

くさい力でしめあげ

やがて 蝶のまうに

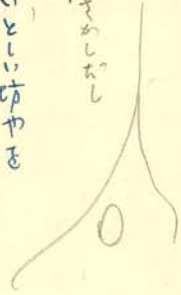
うろたえし

空をこころし

煙を箱し

狂い死なせぬ

あの戦い争が



どのよんしつ日ギョウ国を

ヒヨロマの町を焼き、

おまえの瞳からすかりつくちから

ふちやんと奪つたか

母やんとうばつたか

ほんとうのヤウミとと いんやま

いつやまがー

いつやまがー
ほんとうのヤウミとと
おまえの瞳からすかりつくちから
ふちやんと奪つたか
母やんとうばつたか
ヒヨロマの町を焼き、
どのよんしつ日ギョウ国を